



発行

建設省

富士砂防工事事務所

富士宮市三園平1100

電話(0544)27-5221

富士山砂防30周年記念式典・シンポジウム開催

富士山の昨日・今日・明日

—富士山を見つめ、学び、富士山を愛する人々と語る—



富士山を知り、富士山との共生を考える

富士山直轄砂防事業が昭和44年に着手され、その30年の節目として「富士山の昨日・今日・明日」をテーマに、事業を振り返り、多方面から評価・意見をいただく一連のイベントが実施されています。

その一環として富士山直轄砂防30周年記念事業実行委員会(富士宮市・富士市・芝川町・静岡県・富士砂防工事事務所)の主催で、記念式典とシンポジウムが11月17日富士宮市民文化会館大ホールにおいて開催されました。

式典は、実行委員長(渡辺富士宮市長、建設省砂防部長、中部地方建設局長(門松河川部長代読)による挨拶、来賓(大野静岡県出納長)からの祝辞の後、富士砂防工事事務所長による事業経過報告がなされました。

また、昭和51年7月に大沢崩れを訪れた幸田文さんの随筆から製作したハイビジョンビデオ映画「幸田文『崩れ』富士山大沢崩れ」の初公開上映に続き、青木玉さん(幸田文さんの長女)による特別講演「『崩れ』と様々なつながり」が行われ、1200人収容の会場をうめた聴衆は興味深く聴取していました。

第2部シンポジウムは「富士山を見つめ、学び、富士山を愛する人々と語る」をテーマとし、池谷浩建設省砂防部長をコーディネーター、今井通子さん(医師・登山家・富士山大沢崩れ研究会メンバー・御中道ぐるっと360度塾長)、若林淳之さん(静岡大学名誉教授・同研究会メンバー、富士宮市在住)、山村レイコさん(エッセイスト・国際ラリーライダー、朝霧高原在住、平成11年富士砂防一日事務所長、青木奈緒さん(エッセイスト・青木玉さん長女、水山高久さん(京都大学教授・昭和52年富士砂防勤務)の富士砂防にゆかりのある方々をパネリストとしました。また町田洋都立大学名誉教授、増沢武弘静岡大学教授、渡辺新浅間大社権宮司等よりVTRでコメントをいただき、それぞれの専門分野から富士山の様々な実態と富士山への思いや、今後の事業展開に関する活発な意見交換が行われました。

式典・シンポジウムのおわりに、富士山への手紙・絵コンクールの受賞作品が読み上げられ、聴衆に大きな感動と余韻を残し閉会しました。



特別講演

『崩れ』とさまざまなつながり

青木 玉



講演者の紹介

一九二九年東京都生まれ。東京女子大学国語科卒。六十代半ばにはじめて筆をとった『小石川の家』（講談社、94年）で芸術選奨文部大臣賞を受賞。祖父の幸田露伴、母の幸田文とともに東京・小石川の家で過ごした厳しくも懐かしい日々の生活が、事細かに書き綴られている。本人は「お喋り」のつもりで書いたといいますが、文才はしっかりと引き継がれており、名文との評価が高い。

また日本人の心「着物」に対する愛着も祖父譲り、母親譲り。母の着物にまつわる話を収めた『幸田文の単品の引き出し』（新潮社、95年）でも、「そろそろ顔縁に入りかけている」着物の世界をとおして、母を中心とした人間模様を生き生きと描きだしています。祖父や母に仕込まれた家庭、職、生活の知恵、気配り、物の見方……それらを「伝統」という一言で片づけることはできない。

幸田露伴を父にもつ作家・故幸田文さんは、日本全国の崩壊地を巡り随筆集「崩れ」を執筆し、大谷崩れ、大崩れ海岸について76年7月に富士山大沢崩れを訪れています。

講演では、文さんの長女・作家青木玉さんが、「崩れ」を執筆したきっかけや、取材・創作中の様子をまづ語られました。はじめ青木さんは72歳という高齢で危険な箇所に出かけるのは反対だったこと。自然のスケールの大きさに目を奪われ、はかり知れない大きさの悲しみをもたらす「崩れ」が自分の国の中に数多くあり、どうにかしなければならぬと憂いたこと。再び取材し原稿を補足したくて、刊行を躊躇していたことなども。

「崩れ」発刊後、玉さん自身が「縁がつながり」母・文さんが歩みたいいくつかの場所を実際に訪れて、「人の計算外のことが起こるのが自然。崩れへの母の思い、憂いは間違っていないかと思う。」崩れという現象と災害を穏やかに治める治山・治水事業に對し、もう少し心を寄せてほしいと述べられました。最後に「崩れ」を通じて人との出会いへの感謝と、富士砂防、そして全国の治山・治水事業の現場に携わる人々への敬意を表わしました。

ビデオ紹介

幸田文「崩れ」富士山大沢崩れ

ハイビジョン「崩れ」の撮影は七月後半から九月下旬までの約二カ月間、四回にわけて行いました。崩れる瞬間の迫力ある映像を撮るためお助け小屋に泊まり込み、標高約3000mまで登り撮影しました。ヘリコプターによる空撮もまじえ、ハイビジョンによる鮮明な映像とNHKアナウンサー加賀美幸子さんの朗読により、富士山大沢崩れの実態を紹介するものです。

※貸出し希望（但し、営業目的は不可）の方は、富士砂防工事事務所まで連絡下さい。

富士山学習

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

0000 0000 000000

新刊紹介

富士山学習

—知りたい、学びたい、共に生きたい—

「富士山学習」研究会編・国土社
富士宮市は全市の小・中学校で総合学習の先駆的試みとして全国的に評判の高い「富士山学習」に取り組んでいる。「富士山を知りたい」という子どもの知的欲求、自ら学ぼうとする意欲を喚起するための書。

「土石流災害」

池谷浩吾・岩波新書
毎年1000件以上も起こる土石流災害とはどのようなものか。どう予測し、いかにして防ぐかを砂防行政の第一人者が解説。

今井通子



■富士山・富士山大規模崩れ研究会メンバー
御中道くつと360度撮影

スキーやヒマラヤ登山のための高所順応で随分使わせていただいた。9月に「富士山御中道くつと360度」に参加、東京ドームのような岩の重なる大沢崩れも目の当たりにした。富士山頂に三度登った人が次に御中道に行くのは悟った者だからだと思ふ。土石流を防ぐのなら、大沢崩れのオーバーハングした岩を切り落とし、扇状地は何十年も土砂をためる深い掘り込みを作ったらしい。世界の景色がオーバーラップする御中道巡りを自然を学ぶ研修をする現代の修行道として世界に紹介したい。

若林淳之



■静岡大学名誉教授・富士山大規模崩れ研究会メンバー
富士山麓在住

七十五年も私自身富士宮に住んで、富士山と共生する知恵、文化を明らかにしてきたが、今後も研究していきたい。知恵としては、富士による天気予報や地名がある。また民衆が富士の恵みを共有してきたが、それをシャットアウトした歴史があり、富士山への信仰も、噴火に対する民衆の悩みが、霊峰富士への信仰に変わってしまった。山麓の土砂災害を防ぐ営みは七、八百年前から実施されている。

山村レイコ



■エッセイスト・国際ライブラリー・朝霧高原在住
平成11年富士砂防一日事務所所長

五年前から朝霧高原に住み始めたのは、富士山への刷り込みと共生し調和し、自分が謙虚になつて自然を知った。4日前、御中道から大海、岩壁を歩き、ななての恰好の良い崩れと大感動。一日事務所所長になったのは、公共事業の工作物できれいなものは一つもなく、内部を知り、要望しようと考えたから。富士山をルールをもって触れる山とするため、関わりある県・町が連携してほしい。

シンポジウム出演者の意見・提言

文責 富士砂防工事事務所

青木奈緒



■エッセイスト・青木奈緒さん
長女

今年六月に、23年前に祖母が歩いた大沢崩れと麓で現在実施されている砂防施設を訪れた。大沢崩れには、何か厳罰なものがある。大沢崩れも、扇状地も、土石流も、人の、特に都会の人の物差しでは、計れないものがある。砂防施設、監視カメラ、HEARTシステム等現在の対策を祖母が知ったら、どんなに喜んでいただろう。祖母が書いた「宿命」は伝えきれない圧倒させるもので、まず行って自分の目で確かめ、知ることと思う。

水山高久



■京都大学教授・昭和52年富士砂防勤務

昭和52年に富士砂防に勤務し、10年間の既存データを解析し、対策をいろいろ検討していた。大沢崩れの崩れている場所や土石流の発生メカニズムが「雰囲気」にわかってきた。大沢川の遊砂地が設置され、次に備えて遊砂地で土砂を除くシステムが確立された今、安全度は格段に向上している。私は技術的に崩れ対策は可能であり、経済性の問題だと思う。早い時期に対策案を提示し、全く違う立場の人々としつかり議論してみたい。

池谷 浩



■建設省砂防部長

富士山に深い関わりがあり、文化・歴史等多様な見解を持つパネラーにより、富士山の恵み、魅力と災害、そして富士山との共生について会場の方々とともに考えていただいた。町田先生の言われる災害の規模は非常に大きなものと考えられる。何よりもまず富士山を知ることがベースであり、それを学んだ上で防災と地域づくりを考え、富士砂防は地域の皆さん、市町・県・国を幅広く連携し、多方面の方々の意見を聞きながら事業を進めていくべきだと考える。富士山が地域の住民はもちろんだ、日本国民にとっても素晴らしい共生ができる日本の心の山となつてほしい。

VTR出演者

堀内立三

■古地図学会理事

もともと登山家で、古地図に出会い富士山にのめり込んだ。江戸時代、江戸から富士山が良く見えたのでいろいろな地図ができた。富士山の表現は作者によって異なるが、庶民の山として描かれている。

富士宮市特宿区の住民の方々

山崎たね代さん 大雨になるといつ流されてもいいよう押入に入り込み荷物をまとめていた。

竹川金一さん

大雨になるとたび水防団として出動し、あまりひどいと応援をお願いした。

井出 潔さん

三面貼りの流路工のおかげで、全く洪水の脅威から救われたと思っていた。平成9年の土石流のビデオを見て、扇状地の工事で土石流を堰き止めたことがわかった。

井出信子さん

安心して富士山が眺められるようになり、季節季節、富士山の美しさこの地に住める幸せを知った。

町田 洋

■東京理科大学名誉教授 火山学・噴出物

大沢崩れが研究の始まりで、人生の中で研究の糸口をつけてくれた。大沢崩れに來ると、自然のすばらしさ、怖さが理解できる。目の前で起こる変化に感動する。人間が生自然から遠ざかっている。大沢崩れは地震がきっかけで崩れはじめ、今後どうと直下型の地震で崩れるのではない。また火山活動が重要で、将来の鍵を握っている。大沢崩れの対策は、技術的に難しい森林限界の上は無駄な投資となる。人間はどこまでも自然をコントロールできると思っているのが環境問題のルーツである。

渡辺 新

■環境大学権威

砂防対策は今後も必要である。神社としては、富士山は信仰の対象の山である。富士山は自然の摂理にまかせ人間と共生してきたのだから、これからも自然にまかせるのが、自然に対してやさしい姿と考える。

増沢武弘

■静岡大学教授

富士山における南極のような極地の植物が研究テーマ。富士山の動物や植物は未解明な点が多く、保全するためには今の状態・データをきちんと把握することが重要。フジアザミは富士山の裸地に根付く先駆種で、フジアザミがまず地表を安定させ、次の樹種に引き渡していくことを期待している。しかし大きな土砂移動は植物では止められないので、構造物で止めることになり、その結果、環境面でのストレスや攪乱が起こる。それを元に戻すには富士山の植種で行うべきと考える。富士砂防の姿勢も同じなので、相応な情熱をもって研究協力している。

お助け小屋

周辺整備完了

御中道のお助け小屋（大沢休泊所）の周辺整備が完了しました。整備の内容はお助け小屋の壁補修、案内板・道標の設置です。道標には随筆「崩れ」の文章の一部が刻まれています。御中道を歩かれたら、一度寄ってみてください。

11月18日には、関係者、青木奈緒さん（幸田文さんの孫）をご案内しました。



当日は雪の御中道を歩きました。

道標脇に立つ青木奈緒さん（幸田文さんの孫）



幸田文さん「崩れ」の一文の入った道標

整備されたお助け小屋

あなたの知識と経験で
土砂災害の予防・軽減を

富士山砂防ボランティア協会発足

富士山直轄砂防事業が30周年を迎えるにあたり、今まで砂防事業に携わって得た知識や経験が少しでも人々の安全と安らかな生活に役立てばと考え、富士山砂防ボランティア協会が11月17日の30周年記念式典において設立されました。

砂防ボランティアは、ボランティア精神に基づく「自発的」「無償的」「公共的」活動を通じて土砂災害防止に貢献する者と定義され、土砂災害に関する知識の一般の人々への普及、広報活動や渓流・地盤等に生じる土砂災害発生に関連する変状の発見及び行政等への連絡、被災者の援助、会員相互の技術の向上等の活動の他、当協会独自にフジヤザミ、ミヤマハンノキ等管理・増殖等、富士山の自然環境保全活動を行うとしています。また、会員は居住または勤務地を限定せず、広く全国的に組織しています。

初代代表には渡邊昌弘富士砂防工事事務所初代所長が就任され、現在の会員数は34名ですが、インターネット等の広報媒体を用いて会員募集中です。多くの方々の入会をお願いします。

有事の際の活躍が期待されます。

なお、入会を希望される方は、氏名・生年月日・連絡先住所・電話番号を、EメールまたはFAXにて下記までご連絡ください。

設立発起人 渡邊昌弘

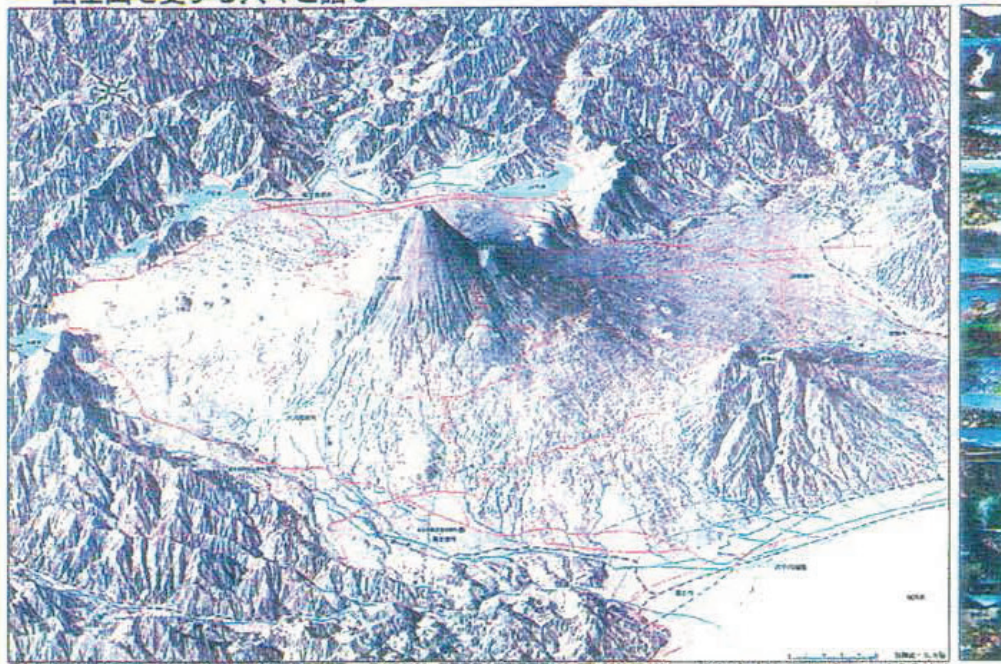
●お問い合わせ先

建設省富士砂防工事事務所あまつばめ（担当 萩村）

TEL.0544-27-5221 FAX.0544-27-6986 E-mail fujisabo@cb.moc.go.jp

富士山直轄砂防事業

30周年を記念しポスター作成

富士山を見つめ、学び、
富士山を愛する人々と語る富士山周辺を
立体的に

富士砂防工事事務所では、砂防計画策定における地形解析のため地形図データから作成したコンピュータ鳥瞰図を用いてポスターを作成しました。富士、富士宮、御殿場、山梨県富士吉田市や富士五湖、周辺の山々を立体的に表した大型（B1判）ポスターです。

富士山周辺の微地形や高低差がひと目でわかるのが特徴です。ポスターは2000部作成され、関係機関・各学校に配布されました。

富士砂防工事事務所の広報誌 『富士砂防だより』の新名称を 募集します！

富士山直轄砂防30周年を迎え、平成元年より地域の皆様方に情報を発信してきました「富士砂防だより」の新名称を新たに募集します。21世紀に向かう新たな情報発信誌として、皆様方に親しみやすく、さらに内容の充実をはかっていく広報誌にふさわしい名称をお寄せください。

募集要項

- 賞品：入選（10点、内1点は採用）された方には粗品を進呈します。
- 募集期間：平成12年1月1日（土）～平成12年3月1日（水）
（当日消印有効）
- 発表：平成12年3月下旬、入選者に直接連絡するとともに、新聞等で発表します。
- 応募先：建設省富士砂防工事事務所／広報担当

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100 電話（0544）27-5221

郵便ハガキに、あなたが考えた「富士砂防だより」の新名称を1点記入し、住所・氏名・年令・職業（学校名・学年）を明記してご応募下さい。

- 新名称
- 名称の意味
- 砂防事業への意見
- 住所
- 氏名
- 年齢
- 職業（学校名・学年）

富士山を知ろう 第2回

活火山としての 富士山

富士山噴火の歴史

富士山は過去に大きな噴火を繰り返しましたが、江戸時代の1707年（宝永4年）の「宝永噴火」と呼ばれる噴火活動を最後に約300年近くも噴火活動がありません。しかし、富士山の一生は長いため300年程度の活動休止期間は富士山の一生から見ればほんの一瞬に過ぎないのです。火山は長い歴史の中で活動的な時期と休止期間を繰り返し、富士山は今、休止期間にあたります。

現在つたわっている記録によると、奈良時代から江戸時代の中ごろまでに、15～18回の噴火があり、そのうち3つが大噴火であったと記されています。

1. 延暦の大噴火 [延暦19年・800年]

記録によると「朝から夜まで噴火は35日間も続き昼は噴火のけむりでうす暗く、夜は火柱が噴きあげ、火山灰が雨のように降った」ということです。このため東海道の足柄の道が火山灰でうすまり、新しく箱根を通る道が開かれたそうです。

2. 貞観の大噴火 [貞観6年・864年]

この噴火は地震といっしょにおこり、火口から流れ出た溶岩は、当時の大きな湖、せの海に流れこんで、精進湖と西湖ができました。「まっ赤に焼けた溶岩が湖に流れこみ、湖は熱い湯になり人や家は湖とともにうすもれてしまいました」と記録には書かれています。



3. 宝永の大噴火 [宝永4年・1707年]

富士山でもっとも新しい噴火です。南東の斜面の火口から火山灰が立ちのぼり、遠く江戸の町にも灰が降り昼間でも灯りをつけなければならぬほどうす暗くなりました。この時にできた寄生火山が宝永山（2693m）です。富士山はこの噴火の後、一度も噴火をしていません。

1707年（宝永4年）10月28日、東海道以西に壊滅的な被害をもたらした「宝永地震」が発生しました。この地震のマグニチュードは、8.2と推測され、1995年（平成7年）の阪神・淡路大震災の7.2をはるかに上回ります。この宝永地震の僅か49日後、富士山が爆発しました。1707年11月23日に始まった噴火は、12月9日まで約半月間続き、富士山東麓一帯の村々は噴火の影響をまともに受け2～3mの焼け砂に覆われ、家も田畑も埋没し壊滅状態でした。このため人々は飢饉に直面し、多数の餓死者がでました。

また焼け砂を除去するため川に捨てたので、流れ出た焼け砂は神奈川県内を流れる酒匂川下流の川底に堆積し、川を浅くしてしまいました。そこへ翌年（1708年）6月21日、激しい豪雨が足柄平野一帯を襲い、酒匂川の堤防が決壊して大洪水となり農作物に大被害をもたらしました。

このように宝永の大噴火は、降下火砕物による直接の被害と飢饉の発生、さらに河川に流出・堆積した降下火砕物による大洪水の発生と、広域に渡って人々の生命・財産を脅かしました。焼け砂に埋もれた土地が完全に復興するまでには、30年以上の歳月を要しました。

富士山の噴火記録

年	出典	状況
781年（天武元年）	続日本紀	火山灰を噴出。
800年（延暦19年）	日本後紀	山頂火口からの大噴火。降灰で足柄路が埋没し、2年後に箱根路が開かれた。
826年（天長3年）	寒川神社日記録	噴火。
864年（貞観6年）	三代実録	北西山腹から大噴火。流出した溶岩がせの海を埋めて西湖と精進湖に二分。
870年（貞観12年）	寒川神社日記録	山頂火口からの小噴火。
932年（承平2年）	富士史	噴火。大宮浅間神社焼失。
937年（承平7年）	日本通記	北東側の割火口から溶岩流出。
999年（長保元年）	本朝世紀	南斜面で噴火。
1017年（寛仁元年）	富士史	北方山腹3か所で噴火。
1033年（長元6年）	日本紀略	南斜面へ溶岩流出。
1083年（永保3年）	扶桑略記	側火口からの噴火。
1511年（永正8年）	妙法寺旧記	噴火。
1560年（永禄3年）	日本災異志	噴火。
1700年（元禄13年）	日本災異志	噴火。
1707年（宝永4年）	折たく柴の記 など文献多数	南東山腹から大噴火し、宝永山を生じる。 噴出物総量は8億5,000万m ³ で江戸まで降灰。



宝永噴火の図（御殿場市 滝口文夫氏蔵）

火山防災講習会を実施



富士山噴火に警戒を!!

災害予測が重要!!

活火山富士山の現状と火山防災を語る「富士山火山防災講習会」が10月16日、富士宮市民文化会館で、富士砂防事務所主催、山梨県・静岡県共催で開催されました。この講習会は、富士山の活火山としての静穏期に火山防災の現状を正しく理解し、他の火山の事例などに基づき、火山防災の方策、特に火山災害に関わるハザードマップ（災害予想図）の重要性を認識することを目的に、実施されました。

参加者は、山梨県・静岡県の防災担当部局、富士山周辺の市町村防災担当者、静岡県の自主防災組織のほか、「富士山学習」の一環として地元富士宮市の中学生が参加し、一般の参加者を含め400名をこえる盛況でした。

講習会は、文科大学教授の伊藤和明氏によるハザードマップの作成と公表の重要性を訴える基調講演のあと、パネルディスカッションでは「富士山の生い立ちと火山災害」（土隆一静大名誉教授）、「富士山の地震・傾斜計観測」（越川元雄科技庁防災科学研究所）、「火山災害の特性と対策事業」（建設省池谷浩砂防部長）などが説明され、最後に北海道上富良野町の十勝岳の噴火の際ハザードマップが大きな役割を果たした事例（高橋英勝前上富良野町企画課長）が紹介され、行政と住民が一体となって取り組む必要性が強調されました。

会場からの質問に、池谷浩部長は火山を抱える自治体担当者の課題として、

- ①富士山をよく知る
- ②情報収集と住民伝達の仕組みの整備
- ③災害弱者（お年寄り・子供）も考えた避難方法の確立
- ④住民への防災知識の周知

の四点を指摘しました。まとめとして「火山の静穏期に何をすることが問われる」こと、「行政と住民、科学者が一体となって、英断を持って防災対策に臨むことが必要である」ことが指摘されました。

講演後のアンケートでは、「富士山が活火山であることを再認識した」、「火山について解りやすい説明であった」、「またこのような講習会を開いてほしい」等の意見が数多く寄せられ、参加者の関心の高さを示しました。

平成11年度 第4回富士山への手紙・絵コンクール

富士山に学んだこと 富士山と共に生きること 富士山と地域を守ること
そして美しい富士山をいつまでも残していくためにあなたの富士山に寄せる思いを手紙に絵にしてみました。

富士宮市長賞
幼児の部

浜松短期大学附属幼稚園 信生美術教室 6歳

増田 詔子



(社)富士宮青年会議所理事長賞
小学生低学年の部

富士宮市立大宮小学校 2年

清 睦



建設省富士砂防工事事務所長賞
中学生の部

静岡県立長岡西中学校 3年

杉山 亜沙美



富士宮市長賞
高校生・成人の部

富士宮市小泉

加藤 泰史



富士宮市教育長賞
小学生高学年の部

富士川町 太田利三絵画教室 4年

斎藤 良真



平成11年度第4回富士山への手紙・絵コンクールの応募が、9月16日をもって締め切りとなりました。多数のご応募をありがとうございました。手紙部門、絵部門ともに応募が昨年を大きく上回り、コンクールに対する皆様方のご理解、ご協力に感謝いたします。

審査は9月下旬より開始され、10月28日に、作家の村松友視審査委員長を迎えて最終審査が行われました。手紙部門・絵部門で、幼児(絵部門のみ)・小学生低学年・小学生高学年・中学生・高校生成人の各応募部門ごとに、最優秀賞・特別賞・優秀賞・佳作が選出されました。12月5日に富士宮市民文化会館において表彰式ならびに講演会を実施しました。なお、受賞作品は第4回「富士山への手紙・絵コンクール」作品集に掲載されております。お問い合わせ下さい。



手紙部門を審査する村松友視審査委員長

手紙部門

応募数	平成11年	平成10年
小学生 低	885	766
高	1056	1033
中学生	1203	825
高校・成人	238	413
総計	3382	3037

絵部門

応募数	平成11年	平成10年
幼児	411	477
小学生 低	1343	915
高	1578	910
中学生	406	503
高校・成人	95	69
総計	3833	2874